

福寿園が祝賀会

茶の文化継承に尽力

【大阪】福寿園は11月26日、「福寿園三つの慶事祝賀会」をウエスティン都ホテル京都で開催した。体験施設「福寿園宇治茶街道を行く山城館」の竣工と、福井正憲会長の米寿、著書の世界旅行記「地球の端秘境を知る旅」百聞は百見に如かず、地球を知る旅日記」完結巻となる第12巻の上梓を祝うもの。約600名が出席した。

福井正興社長は「お茶の楽しみはいつまでも続くものではなく、ひよつとするといつか消えてしまうという危機感を抱く。これからの歩みを考えたとき、新たな事に挑戦し、100年先にもお茶の魅力を伝えていくことに力を尽くしていきたい。福寿園宇治茶街道がお茶の聖地となるよう、従業員一同尽力していく」とあいさつ。

正憲会長は「日本では日本が中央に位置する世界地



福井正憲会長

福井正憲会長は「日本では日本が中央に位置する世界地の中心地でもあった。開国から明治期には、生糸とお茶が外貨獲得の主力商品となり、その施設が現存している。世界的にも例のない歴史

図を見ていたが、初めて海外を訪れた西欧の地図で、近東、中東、遠東、その先の日本は北極・南極と同じ極東であることに気づいた」とし、極東からの視点で世界160カ国を巡った思いを述べた。

また「山城は平城京や平安京より古い飛鳥時代の寺跡が残る。日本茶800年の歴史の始まりであり、京都と奈良を行き来する街道沿いで文化交流の中心地でもあった。開国から明治期には、生糸とお茶が外貨獲得の主力商品となり、その施設が現存している。世界的にも例のない歴史

創業の地に茶文化体験施設

文化の地。日本の文化の原点がここにあり、世界に冠たる地になるよう発信していきたい」と話した。来賓祝辞では、鳥井信宏

サントリーホールディングス副社長COO・サントリー社長が「福寿園とのつながりは、大事な名前であり、祝賀会に合わせて、「福寿園宇治茶街道を行く山城館」の見学会を行い、約400名が参加した。



山城館 製茶機械の展示

創業の地である京都府木津川市山城町に、茶のテーマパークを展開する。山城町は京都と奈良を結ぶ奈良街道の中間に位置し、近隣に茶産



茶問屋ストリート

地か広がることから、茶の集積地としてかつては約130軒の茶問屋が軒を連ねた。現在は約30軒ほどとなったが、茶問屋街の街並み風景が残る。「日本茶800年の歴史散歩 京都・南山城」が日本遺産登録されている。

「伊右衛門」をお借りしており、今年は『伊右衛門』PETボトルの発売から20周年となる。今後もしつかりと丁寧に育成していきたい」と話した。

山城館は「伊右衛門ティーガーデン」「茶問屋ストリート」の2エリア、14の施設で構成する。ティーガーデンには茶の木1万本を植樹。同社が目指す「ティーライフの創造」「文化(Culture)」「健康(Health)」「快適(Amenity)」を提案する「CHA(茶)」の姿をイメージし、三角錐の茶畑をミニメンタルに配置した。体験教室ができる建物を併設し、お茶づくりやお茶を淹れる体験などのイベントを実施していく。

茶問屋ストリートエリアは、展示施設や資料館、売店、お食事処などを配置した。製茶機械の展示では、



茶の品質評価を行う「拝見場」

ち込まれる茶葉を評価した「拝見場」の様子をそのまま伝える。光の加減で品質が左右されないよう、採光は北側の一角とし、壁を黒く塗った場所で品質評価を一定に保った。山城館は「山城茶問屋の文化を伝える」をテーマとし、来年3月にオープン予定。京の茶文化を伝える「京都館」(京都本店)、宇治茶の文化を伝える「宇治館」(宇治茶工房)、日本茶文化の未来を拓く「学研館」(CHA遊学パーク)に続く施設となる。(赤松裕海)

茶問屋の建物を利用した展示では、近隣農家から持

購読料金改定のご案内

長期にわたり「酒類・食品 News & 解説」のご愛読を賜り、厚く御礼申し上げます。さて、弊社では2025年1月1日以降のお申込みより、購読料金を改定させていただきますことになりました。わが国全体に及ぶ諸物価の高騰が続き、通信費を含めた大幅なコストの上昇を自助努力で吸収しきれなくなっており、価格改定の理由です。購読料金の改定は概ね30年ぶりです。

新購読料金(6カ月)は1万4300円(税込み1万5730円)とさせていただきますが、読者の皆さまにおかれましては、諸事情お波み取りいただき、ご理解賜りますよう、お願い申し上げます。

株式会社日刊経済通信社